

2019（平成31）年度
施政方針

平和 こども 未来

あなたと ともに



那覇市

< 目 次 >

1 市政運営の基本姿勢

- (1) はじめに
- (2) 平成の終わりに平和を想う
- (3) 基地負担のあり方と日米地位協定
- (4) 市民力・地域力を育み、高める
- (5) 次代をつなぎ、未来をひらく
- (6) 人間力を高める人材育成
- (7) 那覇を支える「働く人」の支援
- (8) 文化芸術の発信とまちづくり
- (9) 「人を呼ぶインフラ」としての LRT への期待
- (10) Society5.0 の実現に向けて

2 予算編成と主要事業の説明

- (1) 予算編成の説明
- (2) 主要事業の説明

3 結びに

過去に学び、今日を生き、未来に希望を持つ

はじめに

はいたい　ぐすーよー　ちゅーうがなびら。

昨年11月、市民の皆様から再び負託を受け、私は第33代那覇市長に就任いたしました。

32万市民の幸せを願い、本市のさらなる発展に向け、全力を尽くしていくことを、改めて決意した次第でございます。

「やさしく、温かく、こまやかに、心をひらく、未来をひらく」この信念の下、市民の皆様にお約束した公約の実現に向け、精力的に取り組んでまいります。

本市議会の皆様におかれましては、よりよい市政の実現に向け、ご理解、ご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

それでは、平成31年度の施政方針と予算案、主要事業をあわせてご説明申し上げます。

ゆたさるぐとう　うにげーさびら。

（平成の終わりに平和を想う）

まもなく平成という時代が幕を閉じようとしています。

天皇陛下は、85歳のお誕生日に際し、「平成が戦争のない時代として終わろうとしていることに、心から安堵しています」とのお気持ちを述べられました。

このお言葉に象徴されるように、「平成」は、国の繁栄とともに、心から平和を希求した時代であったのではないかと感じております。

その平和を願う想いは、先の大戦で、苛烈を極めた地上戦を経験し、多くの人命を失った沖縄にあっては、より深く、人々の胸に刻まれているのではないのでしょうか。

昨年末、本市宇栄原において、過去2例しかない、不発弾の現地爆破処理を行いました。関係者の尽力により、この大変危険な作業も、無事、完了しましたが、処理時に生じた低い爆発音と振動に、今なお残る戦争の爪痕を痛感いたしました。

当時、このような砲弾が「鉄の暴風」として、地形が変わるほど激しく降りそそぎ、先人の生活の場が、焦土と化したことを思うと、胸に迫るものがありました。

私たちの子や孫に引き継がなければならない明るい未来は、何よりも平和がその礎となります。

平成の終わりを目前に控え、私は改めて、平和を希求する思いを強くしております。

（米軍基地負担のあり方と日米地位協定）

復帰から46年を越えた今なお、沖縄県民は、米軍基地の過重な負担を余儀なくされています。

基地負担のあり方については、県民だけが向き合う事柄ではなく、国民全体で考えていかなければならないと思っております。

また、米軍基地から生じる諸問題の解決を図るためには、原則として日本の国内法が適用されないまま、米国側に裁量を委ねる形となる運用改善だけでは不十分であ

り、日米地位協定の抜本的な見直しが求められています。

全国知事会は、米軍基地がない自治体を含め、全会一致で、日米地位協定の抜本的見直しを初めて採択し、昨年8月、日米両政府に提言しています。

この問題は、米軍基地が集中する沖縄という、一地域だけの問題ではなく、我が国の外交、安全保障や国民の人権、環境保護、そして何より、日本の主権についてどう考えるかという、極めて国民的な議論が必要だと考えております。

（市民力・地域力を育み、高める）

私の市政運営の土台となるものは、「協働によるまちづくり」であります。

まちづくりは行政だけで実現できるものではなく、その主体・担い手は、ほかならぬ市民であります。

私は、市民が持つ「市民力」、そして、市民がつながり、地域に生まれる「地域力」には、無限の可能性が秘められていると信じています。

その市民力や地域力を育み、高めていく上で、ひとつの鍵となるものが、校区まちづくり協議会です。私は、すべての小学校区に協議会が設立されることを、目標としております。

現在、設立済みの校区は8校区を数え、地域の実情に応じ、様々な活動を展開しています。その活動に触発さ

れ、準備会を設置するなど、設立に向けて機運が高まっている校区も確実に増えてまいりました。

今後とも、地域の合意形成を大切にしながら、協議会設立に向け、しっかりと後押ししてまいります。

この新しい地域コミュニティによる「協働」を、市内各地域に行き渡らせ、活動の幅をさらに広げていきたいと考えております。

（次代をつなぎ、未来をひらく）

子どもとの関わりは、次代を担う人材育成の出発点です。私は、待機児童解消や子どもの貧困対策、子ども・子育て支援策の拡充を、引き続き重要政策として掲げております。

待機児童問題は、これまで保育施設の整備を進め、施設数を約 1.9 倍に、定員は約 1.5 倍へと大幅に引き上げることができました。待機児童解消に向け、次なる課題となっている、不足する保育士の確保対策に全力を挙げていくとともに、保護者のニーズに、よりこまやかに応えられるよう、努めてまいります。

また、来る 4 月には、すべての公立幼稚園が認定こども園へと移行します。保育と幼児教育の一体的な提供に向け、さらなる質の向上、充実を図るとともに、その先へと続く、小学校入学を見据え、発達や学びの連続性を重視してまいります。

沖縄県の子どもの貧困率は、県小中学生調査の中間報告によれば、前回調査時に比べ、4.9 ポイント改善しました。しかしながら、全国平均の約 1.8 倍と、深刻な状況はまだ続いております。本市は、貧困の連鎖を断ち切るため、腰を据え、長期的な支援を継続してまいります。

そのほか、ら・ら・らステーションを始めとした、妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援、放課後の子どもの居場所づくり、こども発達支援センターの設置など、子どもたちに寄り添い、妊娠や出産、子育てについて相談できる環境を整えていきます。

本市は、次代をつなぎ、未来をひらく施策を、これまで以上に、積極的に展開してまいります。

（人間力を高める人材育成）

全国学力・学習状況調査では、本市の中学校は、全国平均に近づき、また、小学校はすべての教科で、全国平均を上回りました。

学校現場でのたゆまぬ努力、小中一貫教育の推進、子どもの視点に立った環境づくり、そして、子どもの貧困対策を始めとした教育と福祉の連携強化など、これまでの取組みが、着実に実を結び始めていると感じます。

一方、AI 時代の到来が現実味を増し、私たちの労働環境、社会が激しく変化するとともに、「どう生きるか」が、重視される時代に突入しようとしています。

「魚を与えるのではなく、釣り方を教えよ」という、言葉がありますが、「釣りの楽しさを伝えよ」。このような視点が、これからの時代の人材育成には、求められているのではないのでしょうか。

2020 年度より、小学校では、新学習指導要領が完全実施され、アクティブラーニングの視点を盛り込み、プログラミング教育などを、新たに導入することとされています。

最も住民生活に近い自治体の長として、より積極的に 5 年先、10 年先を見据えた人材育成を行なっていく必要性を強く感じております。

私は、教育委員会とも連携しながら、学力の向上はもとより、未来を担う子どもたちが、これから大きく変化していく社会を、しっかりと自らの目で見極め、たくましく生きていけるよう、人間力を高める人材育成を目指してまいります。

（那覇を支える「働く人」の支援）

本年 1 月、那覇空港内の MRO 施設が運用を開始しました。国内外の航空機整備需要等を取り込むことを目指しており、今後、関連産業を集積することで、沖縄の新たな産業を創出していくことが期待されています。

また、那覇港では、総合物流センターがまもなく開業し、付加価値型産業の集積が目指されています。

－2019（平成31）年度施政方針－

空と海の玄関口を擁する本市を舞台に、新たな産業の創出や集積が進めば、本市の求心力がさらに高まり、多様な人材を本市へとひきよせ、その厚みが増すとともに、人の広がりが生まれ、次の相乗効果が引きだされていくものと、私は期待しております。

一方、沖縄が持つ成長可能性に期待し、国内外より投資や企業立地が増加している中、市内中小企業においては、需要をうまく取り込めず、成長の波に乗り切れていない面も見受けられます。

市内中小企業が、好調な県経済の恩恵を掴みとり、また、生産性を向上させ、新しい価値を生み出し、稼ぐ力を高めていくためには、人材育成を柱とした、「人」に対する支援、このことが、本市の役割として強く求められていると、私は感じております。

本市は、大学や高等教育機関、民間企業などと連携しながら、高度人材の育成を実践している企業への支援、経営者等を対象に海外への販路拡大など、経営力強化に繋がるセミナーの開催、そして、多様な働き方や外国人材の確保に関するアドバイザーの派遣など、那覇を支える「働く人」の支援を充実させてまいります。

（文化芸術の発信とまちづくり）

市民、県民が待望する本市の文化の殿堂、新文化芸術発信拠点施設の安全祈願祭、起工式が去る12月に無事、

執り行われました。2020年度末の竣工に向け、鋭意取り組みでまいります。

新しい拠点施設では、沖縄の文化、伝統芸能の継承・発展のみならず、新たな文化の創造・発信の場、優れた文化芸術にふれ、育て・交流する場として、本市の魅力を高めていくことを目指してまいります。

そして、多数の商業施設や宿泊施設が立地するという、地の利を最大限に生かし、新たなにぎわいを創出することで、多くの市民や県民、観光客が施設周辺へと足をのばし、中心市街地の活性化、観光や経済振興等、波及効果をもたらしていくことを期待しています。

また、新たに市内で夜に楽しめる観光コンテンツ等を創出するための調査を実施します。参加交流型ナイトアミューズメントの場として、新文化芸術発信拠点施設を活用していくことも進めてまいりたいと考えております。

（「人を呼ぶインフラ」としてのLRTへの期待）

多くの市民や観光客の足として定着したゆいレール。公共交通に対する市民意識を変革しただけではなく、まちづくりにも大きく寄与してきました。

ゆいレールと同様に、本市のまちづくりへの新たな役割が期待されるのが、LRT（次世代型路面電車）です。

LRTを含む路面電車は、高齢社会に対応する新たな交通手段として、また、まちづくりに必要なツール、い

わば「人を呼ぶインフラ」として、全国で脚光を浴びています。人に優しいＬＲＴは、本市の「ひきつける力」を一層、輝かせるものであり、今こそ、ＬＲＴへの向き合い方を、さらに高めていかなければならないと、私は認識しております。

那覇空港と首里地域を結ぶ、南北の基幹路線としてのゆいレールに加え、ＬＲＴが新たなエリアに路線を広げ、併せて、バスによるフィーダー線の整備が進めば、本市の交通ネットワークがさらに充実し、都市としての魅力を格段に高めるものと確信しています。

私は、住むまち、働くまち、訪れるまち、那覇のまちの未来地図に、新たな彩りを加える、ＬＲＴの導入実現に向け、着実に歩みを進めていく決意であります。

（Society5.0の実現へ向けて）

国は、IoT や AI などの新たな技術、自動運転やドローンなどの技術革新を、ビジネスや人々の暮らしに取り入れ、経済発展と社会的課題の解決を両立させていく、
ソサエティ
Society5.0 の実現を目指しています。

自治体においては、今後、人口減少により、生産年齢人口、特に若年層が減少していく中、税収の減少だけでなく、職員の担い手不足により、提供する行政サービスの質や量を、担保できなくなることが危惧されています。

厳しい環境においても、本市が提供する行政サービス

－2019（平成31）年度施政方針－

の質を維持し、向上させていくためには、職員の労働生産性の向上と併せて、業務の効率化・省力化を進めていかなければなりません。

昨年は、AI、RPA を中心に、新技術等の行政サービスへの進出が、大きく動き出した年でありました。

様々な自治体が取組みに乗り出し、本市においても、特定健診勧奨業務の一部に AI を導入し、また、税務部門において、RPA の実証実験を開始しています。

本市は、持続可能でかつ効率的な行財政運営を推進するとともに、市民の利便性をより高めていくため、新技術等を積極的に取り入れ、スマート自治体への転換を図り、^{ソサエティ}Society5.0 の実現に挑戦してまいります。

予算編成と主要事業の説明

（予算編成の説明）

それでは、平成31年度予算案の概要を申し上げます。

一般会計予算は、1,468 億1千4百万円で、対前年度比7億5千7百万円、0.5%の減となっております。

歳入予算では、好調な県内景気と様々な徴収努力による市税の増及び地方消費税交付金の増額を見込む一方、地方交付税、国庫支出金、県支出金等で減額を見込んでおります。

歳出予算では、子どもの政策分野の充実事業、経済分野の重点的予算を計上するほか、学校校舎建設や市営住

宅整備、健康診査など各分野へ幅広く予算を計上しております。

結果として、約28億8千6百万円の収支不足が生じておりますが、財政調整基金から、同額を取り崩して対応いたします。

企業会計を除く特別会計予算は、総額約716億5千4百万円で、対前年度比約17億2千2百万円、2.5%の増となっております。特別会計予算の増額は、国民健康保険事業特別会計、介護保険事業特別会計などの増額によるものとなっております。

国保特会の財政赤字に対しては、引き続き一般会計からの政策的な繰り入れを行なってまいります。

（主要事業の説明）

次に平成31年度の主な事業を、第5次那覇市総合計画で掲げた5つのめざすまちの姿に沿ってご説明いたします。

まず、「多様なつながりで共に助け合い、認め合う安全安心に暮らせるまち NAHA」に係る事業について、ご説明いたします。

（小さな「わ」が大きな「Wa」に広がる協働によるまちづくり）

校区まちづくり協議会支援事業においては、市内全域での協議会設立を目指し、引き続き設立支援に取り組ん

でまいります。

市民活動の拠点である、なは市民活動支援センターの利活用を充実させ、市民活動団体の育成と団体間の連携を支援してまいります。また、地域の人材とニーズをマッチングさせる那覇市人材データバンクモデル事業の本稼働に向け、引き続き取り組んでまいります。

小禄支所については、市民活動拠点の機能を備えた建替の実施設計を進め、真和志支所については、中央公民館や中央図書館、福祉関連施設等との複合化を前提に、新たな真和志地域の活性化の核となる施設として、建替に向け、引き続き協議を行なってまいります。

（地域の力が重なる安全安心のまちづくり）

消費者被害の未然・拡大防止に向け、啓発活動及び消費者教育に取り組むほか、相談体制の充実・強化を図ります。

消防力強化のため、「小禄南出張所（仮称）」及び「識名出張所（仮称）」の建設に向け準備を進めます。

近年の大規模災害の教訓などを踏まえ、災害対応力の高いまちの実現を目指し、災害対策の指針となる那覇市地域防災計画の全面的な見直しを行います。

（交流の輪を広げ平和を希求するまちづくり）

宮崎県日南市との姉妹都市提携 50 周年という節目の年を迎えることから、両市を相互に訪問し、今後一層の

相互理解と友好な親善交流に向けて取り組みます。

旧軍飛行場用地問題の解決に向けて、旧地主の慰藉につながる「（仮称）ともかぜ振興会館」と「（仮称）大嶺コミュニティセンター」の整備を引き続き行います。

（人権が尊重され、誰もが心豊かに安心して暮らせるまちづくり）

一人ひとりの個性、多様性を認め、誰もが安心して自己の意思であらゆる分野に参画できる社会の実現を目指し、性の多様性への理解を深めるため、引き続き取り組んでまいります。

いじめやデートDV防止、将来のDV防止に繋げるため、若年層への人権に関する意識啓発事業や、男女共同参画分野の人材育成に資する事業を引き続き実施します。

次に、「互いの幸せを地域と福祉で支え合い誰もが輝くまち NAHA」に係る事業について、ご説明いたします。

（地域で暮らし地域で支えるまちづくり）

地域で悩みを抱える方が孤立しないよう、地域見守り隊の結成充実を図り、誰もが安心して生活できる地域づくりを目指します。

災害時において避難行動要支援者の避難を迅速に行えるよう、避難を支援する関係団体への要支援者名簿の提供、個別避難計画の作成を行います。そのほか、福祉避

難所設置数を拡充し、避難支援体制の構築を目指します。

高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らし続けていけるよう、医療、介護、住まい、介護予防、生活支援などのサービスを切れ目なく提供する地域包括ケアシステムの構築及び充実に地域と協働で取り組みます。

24 時間体制の定期巡回・随時対応型訪問看護介護等の整備を推進し、介護保険サービスの充実を図ります。

障がいのある方へ、身体的な介護や生活訓練・職業的訓練等の障がい福祉サービスを引き続き提供することで、日常生活を支援するとともに、自立、社会参加を促進します。

貧困問題に起因する、こども達の様々な課題に対して支援を行う支援員を配置するとともに、地域で子供たちを見守る子ども食堂等への支援を継続して進め、学校や地域、企業などとの連携を強化して、こども達への支援の輪が広がるよう、取り組んでまいります。

（すべての人が健康で生き生きと暮らせるまちづくり）

健康なは 21（第 2 次）の中間見直しを行い、市民一人ひとりが健康づくりに取り組み、健康長寿を実現できるよう、様々な関係機関と連携して支援します。

子どものむし歯予防のため、2 歳児の歯科健康診査を実施し、また、全小中学校での実施に向け、フッ化物洗口等モデル事業を推進します。

県内初の骨髄移植ドナー支援に続き、新たに、骨髄移

－2019（平成31）年度施政方針－

植等により免疫が消失した20歳未満の市民に対し、予防接種再接種に係る費用を助成します。

罹患率、死亡率の高い大腸がん検診を無料化します。

妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援を充実させるため、妊婦歯科健康診査、産婦健康診査費用の助成を開始します。

（身近な地域で良質かつ適切な医療が受けられるまちづくり）

生活習慣病の重症化予防や、医療費の適正化を図るため、重症化予防事業やA1による特定健診受診勧奨モデル事業を引き続き実施します。

小児や救急など、市民に安全・安心な医療を提供する那覇市立病院の現在地での建替えに向け、支援してまいります。

（衛生的で快適に暮らし、健康危機にも強いまちづくり）

違法民泊など宿泊施設に対する監視指導及び取締りを重点的に行います。

食品の安定した安全性を確認・保証するため、^ハ^サ^ッ^プ HACCPの普及推進を強化してまいります。

結核をはじめ感染症の発生と蔓延を防止するため、感染症に対する正しい知識の普及啓発を行い、また、拡大防止等に関する業務を円滑に行なっていきます。

次に、「次世代の未来を拓き、豊かな学びと文化が薫る誇りあるまち NAHA」に係る事業について、ご説明いたします。

（子育てが楽しくなるまちづくり）

待機児童の解消に向け、第2次那覇市子ども子育て支援事業計画を策定するとともに、保育園等の施設整備に向け、待機児童解消等加速化事業を推進します。また、潜在保育士就職応援給付金事業に加え、新たに、保育士保育料軽減事業、潜在保育士就業体験事業等を実施し、保育士の確保に努めます。

保護者の子育てと就労の支援のため、病気回復期にある保育所通所児を預かる病児保育事業を引き続き実施してまいります。

療育センターをこども発達支援センターへ移行し、障がいの有無に係わらず支援が必要な児童への支援を強化するとともに、保護者や施設スタッフに対し、援助助言を行う地域支援事業を強化していきます。

子どもと家庭に関する身近な相談場所として子ども家庭総合支援拠点を設置し、養育支援や児童虐待対応のための支援体制を更に強化します。

成績優秀で意欲があるにもかかわらず、経済的な理由で県内大学等への進学が困難な学生に対し、本市独自の給付型奨学金事業を引き続き実施してまいります。

（自らの力で未来を拓く子ども達を応援するまちづくり）

－2019（平成31）年度施政方針－

教員の校務負担を軽減するため、「校務支援システム」を全小中学校に導入し、児童生徒と向き合う時間を確保するとともに、教育の質と学力の更なる向上を図ります。

全中学校区に子ども寄添支援員を配置し、不登校を始めとした様々な課題を抱えている児童生徒に寄り添い、学校や家庭、関係機関と連携して、児童生徒の置かれた環境に働きかけ、その改善に向けた支援を行います。

学校施設については、天妃小学校体育館などの改築工事に着手するほか、石嶺小学校の校舎改築工事を継続します。引き続き、学校施設の改築等を推進し、安全安心な教育環境の整備を進めます。

（生涯学習を推進し、地域の教育力を向上させるまちづくり）

真和志南地域に、人材の育成と地域コミュニティの拠点施設として、活き活き人材育成支援施設（仮称）の2020年度開館に向け、建築工事を引き続き進めます。

南部九州4県で開催される全国高等学校総合体育大会において、本市では、水泳の飛込と水球、相撲、なぎなたの3競技4種目を開催し、青少年の健全育成や市民スポーツへの機運を高め、生涯スポーツの一層の推進を図ります。

（郷土の歴史、伝統文化・芸能にふれあい、新たな文化

を創造するまちづくり)

本市固有の文化を継承するとともに、新たな文化を創造する環境の整備と文化芸術の施策を連続的に推進するために文化芸術基本条例を制定するとともに、その実現に向けた計画を策定いたします。

新文化芸術発信拠点施設の早期完成を目指し、全力で取り組んでまいります。

次に、「ヒト・モノ・コトが集い、育ち、ひろがる万国津梁のまち NAHA」に係る事業について、ご説明いたします。

（ビジネス・リゾートと歴史・文化が融合する観光まちづくり)

来春、読売巨人軍春季那覇キャンプが10回目の節目を迎えることから、年間を通してキャンプをもりあげるための取り組みを実施してまいります。

本市を訪れる国内外の観光客を対象とした夜型観光コンテンツ等開発調査に取り組むことで、那覇らしい観光資源の発掘・創造に繋げていきます。

（様々な産業が集い・育ち・ひろがるまちづくり)

アジアと日本の架け橋となる国内外の物流拠点の形成や、観光振興による世界水準の観光リゾート地の形成を目指し、那覇港管理組合が行う港湾の整備やクルーズ船寄航誘致を支援してまいります。

－2019（平成31）年度施政方針－

市内の起業家等と県内外投資家等とのマッチングの場を設け、資金調達の面から企業支援を促進します。

市内中小企業実態調査結果を踏まえ、企業の経営基盤強化に資する支援事業を実施します。

織物と染物を中心とした拠点施設の整備に向け、首里当蔵公社住宅跡地整備事業に取り組み、本市の伝統的工芸品の魅力を発信し、観光及び地域振興につなげていきます。

賑わいのある水産拠点の形成をめざし、泊漁港一帯の経済分析調査を実施します。

（産業を支える市民とその労働環境を整えるまちづくり）

なはし創業・就職サポートセンターやなは産業支援センター、那覇市ＩＴ創造館を活用し、創業や就業に関する相談、セミナー開催やビジネスマッチング等、企業の生産性向上と人材育成を支援していきます。

（中心市街地を活かしたまちづくり）

商店街の活性化を図るため、頑張るマチグッー等支援基金を活用して、商店街や通り会等が行う誘客事業や、商店街利用促進を図るＰＲ事業、商店街環境整備事業など、創意工夫による積極的な取り組みや提案事業に対し支援していきます。

老朽化した第一牧志公設市場の建替えに向けて、仮設市場の供用を開始するとともに、新市場の施設整備に取

り組みます。

次に、「自然環境と都市機能が調和した住みつづけた
いまち NAHA」に係る事業について、ご説明いたします。

（省エネを実践し、資源が循環するまちづくり）

住宅用省エネ設備設置に対する費用の一部助成を引き
続き実施します。

増加する事業系ごみについて、減量・資源化の指導を
継続するほか、賞味期限前の食品の廃棄を抑制する仕組
作りを事業者との協働により検討し、ごみ減量及び資源
化につなげます。

また、家庭から排出された資源化物の持ち去り防止の
ため、資源化物の拠点回収を引き続き進めていきます。

（自然環境が育まれた那覇らしい亜熱帯庭園都市のま
ちづくり）

自然環境保全の意識を高めるため、ラムサール条約登
録地である漫湖の保全活動支援や環境啓発事業を引き続
き実施してまいります。

歴史的背景を有する首里、壺屋地区においては、引き
続き赤瓦屋根や石積みなどへの助成事業を実施し、歴
史・文化に彩られた那覇の景観の向上に取り組めます。

公園ボランティア等、市民の主体的な活動や、民間活
力を活かした公園の整備・再生・活用を推進するととも

に、市街地の緑化を促進することで、みどりに親しみ、魅力溢れるまちづくりをめざします。

（暮らして良し歩いて楽しい快適なまちづくり）

農連市場地区の再開発事業については、現在整備中の分譲住宅や権利者住宅、保育所を併設する市営住宅の完成を目指し、あわせて道路の整備も進めてまいります。

まちづくりや観光振興など都市全体を見渡す総合的な公共交通ネットワークの再構築と、LRT等を新たな基幹的公共交通に位置づける地域公共交通網形成計画の策定を行います。また、国際通りの交通渋滞緩和に向け共同集配の実証実験に取り組みます。

石嶺、宇栄原、大名の各市営住宅の建替工事を継続するとともに、真地市営住宅についても、建替えに向けた基本設計を継続して進めていきます。

飼い主のいない猫への不妊去勢手術の実施、狂犬病予防注射接種率の向上及び適正飼養の普及啓発を図り、動物愛護行政を強力に推進します。

（災害に強い都市基盤の整備で安全安心のまちづくり）

石嶺線や真和志線、一銀線などの都市計画道路について、交通渋滞の緩和を図るほか、バリアフリー化等による安全で快適な歩行空間を確保するため、体系的な道路網の整備を進めていきます。

水道水の安定供給のため、豊見城配水池建設工事に着

手し、市内一円において水道施設管路の耐震化を推進します。

公共下水道の整備による生活環境の改善及び浸水被害の軽減のため、汚水未普及地区の解消、首里石嶺町4丁目地区の雨水調整池の整備、ハーゲラ川の改築、下水道ストックマネジメント計画の策定などに引き続き取り組みます。

（那覇の魅力と特性を活かした土地利用を進めるまちづくり）

私たちが目指す新たな都市の将来像と、まちづくりの基本的な方針である都市計画マスタープランを、市民や専門家等からの意見を取り入れ改定します。

誰もが安心して、快適に住みつづけられるまちを目指して、県内他市町村に先駆け、都市機能の再編・集約化に向けた立地適正化計画を策定します。

那覇軍港の跡地利用については、地主会等と連携しながら跡地利用計画の策定に向けた取り組みを進めます。また、これまで実施してきた地権者等との合意形成活動に継続して取り組んでまいります。

最後に、「市民との信頼を深め、効率的で効果的な行財政運営を行う」に係る事業について、ご説明いたします。

（市民との信頼を深める職員の育成と組織づくり）

－2019（平成31）年度施政方針－

RPA や AI などの新たな技術活用の可能性を検証し、市民サービスの向上及び業務効率化による職員の負担軽減に繋げていきます。

安定した市民サービスの提供と、重要な情報資産保護のために、基幹系業務システムを再構築します。

庁内組織においては、急増した保育施設などの質の確保・向上を図ることを目的に、指導及び監督等の支援体制を強化するため、こどもみらい部に「こども教育保育課」を新設します。

（効率的で効果的な行財政運営を行う）

第5次那覇市総合計画及び中期財政運営方針に留意した行財政運営を行なってまいります。

税収の維持確保に努めるとともに、ファシリティマネジメントの推進、施設整備における民間活用の検討を行い、また、将来負担に留意した市債残高の抑制などにより、持続可能な財政運営をすすめます。

（結びに）

市政運営にかける私の思い、平成31年度の予算案や主要事業の概要などについて説明いたしました。

最後に、もう一言、私の思いを添えたいと思います。

（過去に学び、今日を生き、未来に希望を持つ）

「過去から学び、今日のために生き、未来に対し希望

－2019（平成31）年度施政方針－

を持て」。物理学者、アインシュタインの残した言葉です。

市役所5階にある庁議室。ここでは、本市の重要施策を決定する会議が日々、開かれています。その様子を見守るように、歴代の那覇市長、本市と合併した旧4市村のリーダーたち、43名の肖像が飾られています。彼らを先頭に、多くの先人たちの汗と努力、そして、命のリレーが、今日につながる那覇市を育ててまいりました。

私は、本市の歩みに刻まれた先人たちの想いに心を馳せ、今を生きる市民の皆様にとっての最善とは何か、このことを常に意識してまいります。

また、私にとって、希望とは、行動によって何かを実現するための気持ちにほかなりません。

だからこそ、私は、「未来を生きる子どもたちに明るい未来を示す」、この希望を胸に、日々、市政運営に邁進してまいります。

市民の皆様、並びに議員各位のご理解、ご協力をよろしくお願い申し上げます、私の施政方針の結びの言葉といたします。

いっぺー にふえーでーびる。

平成31年2月12日

那覇市長

城間 幹子



発行 2019年2月

那覇市企画財務部企画調整課

